

24. 食肉産業への小学生の認識について

－と畜場の社会見学による牛豚への意識調査－

田中清司（長野県長野食肉衛生検査所）

要旨：食肉センターは、牛豚等をと殺し解体し食肉として供給する食肉産業の原点である。と畜場及び食肉処理施設を見学希望する小学生に命ある動物が食肉として処理されて行く工程をどのように捉えられているかを把握し、今後の公衆及び食肉衛生と食育への普及啓発推進のため調査を行った。その結果「お肉料理は好きだが、と殺場面は見たくない」との回答であった。また自宅での動物飼養状況及び動物から感染する病気、感染予防法を調査した。結果として今後の感染予防対策を強力に推進すべきと判断した。

キーワード：と畜場、食肉処理施設、体験学習見学、食肉産業、動物由来感染症

A. 目的

と畜場は、牛豚等をと畜解体し食肉を供給する場所であるが、多数の人々とは畜現場に抵抗を感じている。今回小学6年生徒が総合的学習社会見学としてと畜場への希望があり、と畜場内部体験見学について見せるべきかどうか意見が別れた。結果内部見学は取りやめ隣接の食肉処理施設を見学させた。小学生が食肉産業をどのように理解し、また動物由来感染症の認識を訪れた機会を捉え調査を実施したので報告する。

B. 実施方法

①実施時期

平成20年11月17日のと畜場見学への来場後

②調査対象者

地元K村小学校6年生全生徒15名

③調査方法および調査内容

個人が特定されない形で無記名としたアンケートで、調査項目は、対象者の背景、と殺及び従事者への感想、自宅での動物の飼育状況、感染予防、ズーノーシスに関する事項等10項目である。

C. 結果

①回答者の背景

6年生15名の体験者全員から回答が得られ、女子8名、男子7名であった。

②と畜現場について（図1、3、4）

「牛豚の殺すところを見たいですか」の問いには、女子全員がかわいそう、怖い、残酷とのことで見たくないと回答し、「いつになったら見ることができるか」では、年齢で20歳以上でないで見れないとのことであった。男子では、見たい、見たくないが各1名で、残り5名（72%）はわからないとのことであった。また中学生になったら見れるが5名（72%）で、20歳以上は1名（14%）であった。

「と畜される牛豚をどのように思いますか」の問いには、と畜される牛豚をかわいそうだが、自分たちのため

にありがたいと思うが8名（53%）で、かわいそうが6名（40%）であった。

図1 牛豚の殺すところを見たいですか

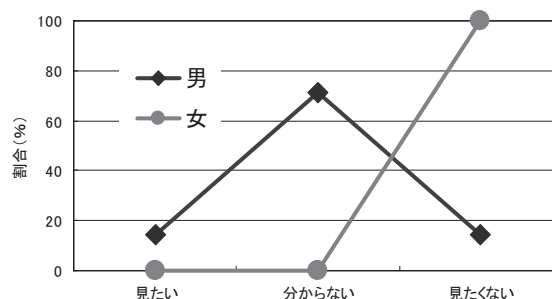


図3 いつになったら牛豚の殺すところを見ることができますか

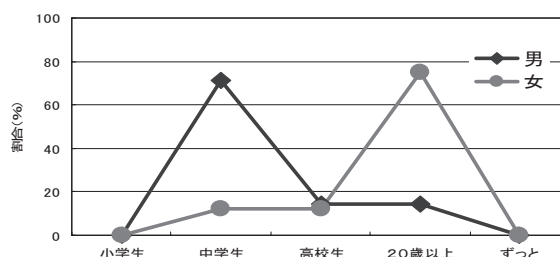
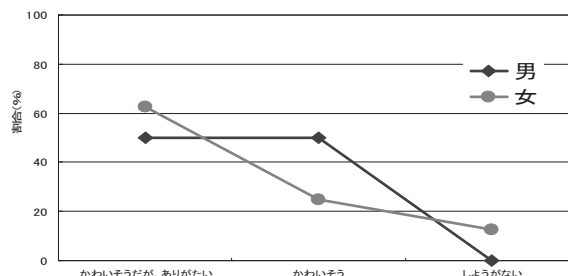


図4 と畜される牛豚をどのように思いますか



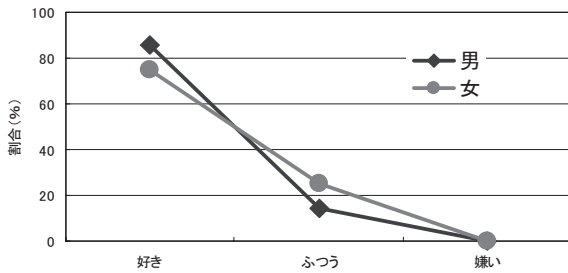
③肉料理について（図5）

「お肉料理は好きですか」の問いでは、嫌いな生徒は誰もおらず、大半の12名（80%）が肉料理を好んでい

た。

ふつうは、男子が1名(15%)で、女子は2名(25%)であった。

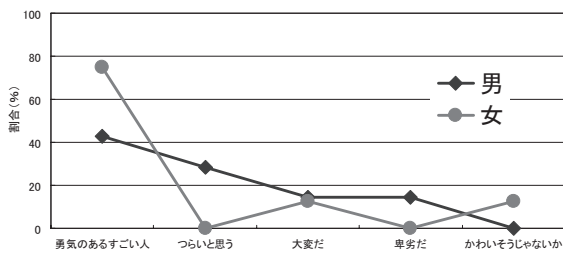
図5 お肉料理は好きですか



④食肉産業に従事する人々について(図6)

「食肉産業に従事する人々をどう思いますか」の問いでは、勇気あるすごい人々とと思うが8名(53%)であった。つらいと思う、大変が各2名(13%)、卑劣だ、かわいそうじゃないかが各1名(7%)であった。

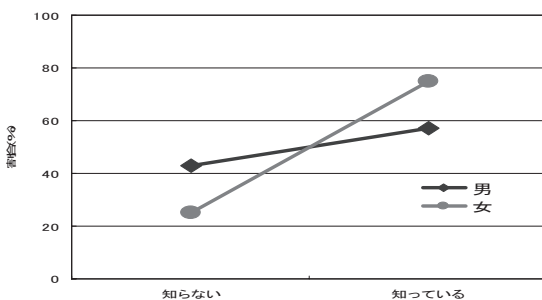
図6 食肉産業に従事する人々をどう思いますか



⑤動物の病気について(図7)

「動物から感染する病気を知っていますか」の問いには、5名(33%)の生徒が知らないとの回答であり、残りの10名(67%)が鳥インフルエンザを上げ、他は狂犬病1名(7%)でした。

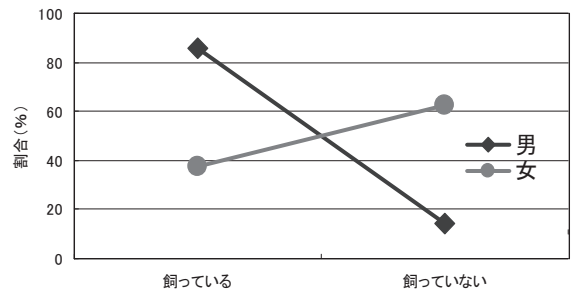
図7 動物から感染する病気を知っていますか



⑥動物の飼育について(図8)

「自宅で動物を飼っていますか」の問いでは、9名(60%)が飼育しており、内訳は犬猫各3名(20%)その他のが3名(20%)であった。

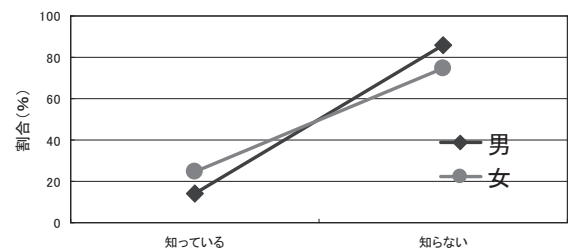
図8 自宅で動物を飼っていますか



⑦動物からの感染症の予防について(図9)

「動物からの感染症を防ぐ方法を知っていますか」の問いでは、12名(80%)が知らないとの回答であり、手洗いが2名(13%)、マスク、うがいが各1名(7%)であった。

図9 動物からの感染症を防ぐ方法を知っていますか



D. 考察

今回の調査では、小学6年生ではまだ動物の死を受け入れられない状況であり、また個人により受け止め方が相違し、全体の体験学習としてと畜場は見せないほうが良いと明らかになった。今後事例数を増やし引き続き検討を重ねる必要がある。

また自宅、学校と生活の中で動物と身近に触れ合う機会が多くあるため、小学生の時から動物由来感染症を公衆衛生の課題として考えていくことが必要である。

と畜場の体験見学を通して、と畜される動物への思い、そこで働く人々の気持ち、動物からの感染と予防と食への考え方を認識し意識の向上が大きく期待された。

謝辞

本調査研究を行うに当たり施設見学に御協力頂いた株式会社北信食肉センター中川センター長及び大信畜産工業株式会社溝口社長に深謝いたします。